

	シーズ名	トリプルネガティブ乳癌における新たな治療ターゲットの開発
	所属・役職・氏名	乳腺・内分泌外科学・講師・柏木 伸一郎 (KASHIWAGI, Shinichiro)

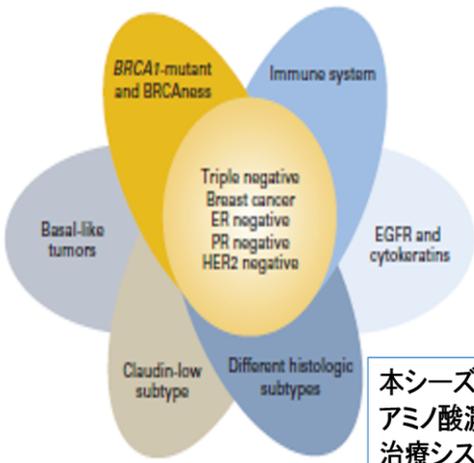
### <要旨>

“Precision medicine initiative” に先駆け、乳癌においては estrogen receptor (ER), progesterone receptor (PgR), human epidermal growth factor receptor 2 (HER2), Ki67 の発現状況などから治療方法が選択される個別化治療が実践されている。ER, PgR, HER2 が陰性であるトリプルネガティブ乳癌 (triple-negative breast cancer, TNBC) では明らかなターゲットがなく治療法はいまだ確立されていない。治療は化学療法が選択されるが、TNBC は化学療法が奏効する例がみられる一方で奏効しない例を多く含み、しばしば治療に苦慮する。そこで当研究グループでは、TNBC における新たな治療ターゲットの開発を目標に研究をすすめている。

### <研究シーズ説明>

TNBCの細分類

*J Clin Oncol 30(15),1879-1887, 2012*



1. [Kashiwagi S, et al. J Transl Med 16:54, 2018](#)
2. [Kashiwagi S, et al. PLoS ONE 12\(2\):e0170634, 2017](#)
3. [Asano Y, Kashiwagi S, et al. Cancers 9\(1\);4, 2017](#)
4. [Asano Y, Kashiwagi S, et al. Br J Surg 103:845-854, 2016](#)
5. [Asano Y, Kashiwagi S, et al. Br J Cancer 114:14-20, 2016](#)
6. [Asano Y, Kashiwagi S, et al. Ann Surg Oncol 23:1104-1110, 2016](#)
7. [Asano Y, Kashiwagi S, et al. Plos Pne 11:e0153459, 2016](#)
8. [Kashiwagi S, et al. Br J Surg 100:490-496, 2013](#)
9. [Kashiwagi S, et al. Breast Cance Res 13:R122, 2011](#)
10. [Kashiwagi S, et al. Br J Cancer 103: 249-55, 2010](#)

本シーズでは、血液や唾液、尿などの体液に含まれるマイクロRNAや代謝物、アミノ酸濃度のバランスなどから“次世代トリプルネガティブ乳癌診断および治療システム”の開発を目的とする。

### <アピールポイント>

当研究グループでは、“トリプルネガティブ乳癌の克服”を課題としてトランスレーショナル研究を推進している。診断から治療まで系統だって乳癌診療に携わっているために、絶対的なサンプル採取が可能である。

### <利用・用途・応用分野>

リキッドバイオプシーとして得られる血液や唾液、尿などの体液サンプルからマイクロRNAや代謝物、アミノ酸濃度のバランスなどを測定する。TNBCの悪性形質獲得に関わる因子を同定する。さらに治療効果予測に関わるバイオマーカーを探索し、臨床応用を目指す。

### <知的財産権・論文・学会発表など>

上記の論文発表。

### <関連するURL>

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/surgical-oncology/>

### <他分野に求めるニーズ>

血液や唾液、尿などの体液に含まれるマイクロRNAや代謝物、アミノ酸濃度のバランスなどから“次世代トリプルネガティブ乳癌診断および治療システム”を開発する。

キーワード	トリプルネガティブ乳癌、リキッドバイオプシー、個別化治療
-------	------------------------------